

【新聞活用教育】全校研究/国語科3年/理科3年

新聞記事を根拠に、教科の見方・考え方を働かせ、友と意見を交わし考えを深める子ども

指定校2年次 飯田市立旭ヶ丘中学校 吉沢寛之・小山ひかり・藤森祥平

(1)本年度のNIE活動の概要

研究指定校1年目の昨年度は、主に「新聞に触れ合う環境づくり」と「生徒同士が関り合い追究を深めていくことにつながる新聞の活用方法」について実践・研究を進めた。新聞に触れ合える環境づくりを進めることで、新聞の前で立ち止まって読む姿が見られるようになった。また、国語科・社会科の研究授業では、新聞を読み取り、自分の経験や学習内容と関わらせて、友と意見を交わし、考えを深める姿が見られた。

今年度は、「新聞に触れ合う環境づくり」を継続した。さらに、新聞記事を用いることで、学習してきたことと実社会に存在する問題を結び付けて考え、意欲的に学習する姿が見られた。

(2)本年度のNIE活動の取り組み状況

本校は、全校生徒数559名(4月時点)の大規模校である。令和4年度全国学力・学習状況調査では、「新聞を読んでいますか」の問いに対して、「月に1～3回程度読んでいる」「ほとんど、または、全く読まない」と答えた生徒の割合は、合計するとおよそ9割であった。これは昨年度とほぼ同じ結果であった。そこで、昨年度に引き続き、「新聞を読むことができる場づくり」「新聞記事の切り抜きの掲示」「信濃毎日新聞データベースの活用」など、新聞に触れ合える場づくりを行った。

昨年度、新聞記事を用いることで、教科の学習と実際の社会を結び付けて考える姿や新聞記事の内容を根拠に自分の考えを伝える姿が見られるようになってきた。今年度は特に、「考えを深める」ことに着目し、授業研究を行った。

(3)NIE活動の狙い

本年度、全校研究テーマを『力強く学び続ける子どもの育成～子どもの視線に立って～』とし、日々の授業実践を行っている。特に本校ではこれまで、生徒同士が関わり合い考えを深めていく「学び合い」を大切に、授業研究を重ねてきた。

昨年度、社会科の授業では、新聞記事をもとに「ブラジルが森林破壊を防ぎながら、経済発展していくことに、『研究室ナゲット』は有効か」について、企業・先住民・地球温暖化など、様々な視点から考え話し合いを行った。生徒は新聞記事・既習の知識・自身の経験などを結びつけ、自分の考えを持つことができた。しかし、話し合いの前後で、生徒の考えが広まったり・深まったりするような変容を捉えることに難しさがあった。

また、国語科の授業では、新聞記事から「中学生はスマホを持つべきか」という生徒にとって身近な問題をテーマに据え、それに対する自分の考えを、根拠を明確にして主張したり、相手の主張を聞いたりするという活動を行った。学習問題「よりよい討論会にするためにはどうすればよいか」に対し、①テーマに対する客観的な情報(信濃毎日新聞データベース)②司会進行の役割③相手の意見を尊重する姿勢をポイントとして考え、討論会を行った。

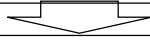
自分が選んだ新聞記事の内容を根拠に、自信をもって主張をすることができた一方で、やや

(5) 公開授業などの活動内容

I 研究テーマ

【全校研究テーマ】

『力強く学び続ける子どもの育成』～子ども視線に立った手立てを通して～



【国語科研究テーマ】

「課題」を自分事として捉え議論を深める授業の創造

II 研究内容

1 昨年度の研究授業概要

単元名「立場を尊重して話し合おう」(2年)

新聞記事から「中学生はスマホを持つべきか」という生徒にとって身近な問題をテーマに据え、それに対する自分の考えを、根拠を明確にして主張したり、相手の主張を聞いたりするという活動を行った。学習問題「よりよい討論会にするためにはどうすればよいか」に対し、①テーマに対する客観的な情報(信濃毎日新聞データベース)②司会進行の役割 ③相手の意見を尊重する姿勢をポイントとして考え、討論会を行った。

2 昨年度の研究授業から見た成果



「中学生はスマホを持つべきか」という、生徒にとって身近な問題をテーマに据えることで、新聞記事と自分の経験をもとに、熱心に討論する姿があった。討論の場面でA生は、自分の主張の根拠となる新聞記事を見せながら「私は、スマホをもつことに反対です。なぜなら、ゲーム依存になる事があるからです。さっき、ルールを作れば良いと言っていたけど、実際に今もタブレットでゲームをしてしまう人もいるからやめた方が良いと思います。」と相手の意見につなげながら、自信をもって主張することができた。



振り返りの場面で、B生は「主観的な思いだけだと、ふーんと思って終わるけど、明確な根拠やデータがあると相手の意見を受け入れられると感じました。」と、根拠を明らかにして討論することの有用性を感じることができていた。また、「新聞記事を使うと、親とか専門家など色々な立場の人の考えを知ることができ、それを考えて結論をだすことができて、自分の意見をしっかりもって、充実した討論会になったと思います。」と振り返る生徒の姿があった。このように、身近な問題をテーマに据え新聞を活用することで、根拠を明確にした討論会につながった。

3 昨年度の研究授業から見た課題



討論が進むにつれ、「ルールを作れば良い」という賛成派と「ルールを作っても守れない」という反対派が、やや感情的に討論する姿があった。特にC生は、「スマホがあれば、困ったことがあれば電話ができるというメリットがある。守れない人がいるかもしれないけど、ルールを作って守るように努力すればいい。」という主張を何度も繰り返す姿があった。そのため、両者とも議論が深まらず平行線になってしまう場面も見られ、相手の主張に耳を傾けることに課題が見つかった。

4 昨年度の研究授業から見た本時における具体的な手立て

- ①新聞記事から身近な問題をテーマに据える。
- ②新聞記事だけでなく、身近な人にもインタビューをして、根拠を明確にした主張をする。
- ③提案を観点に沿って比較検討し、合意形成を目指す活動を行う。

このような手立てを通して、「課題」を自分事として議論を深める姿につなげたいと考えた。

Ⅲ 単元名 「合意形成に向けて話し合おう」(光村図書3年)

Ⅳ 単元設定の理由

3年2組の生徒たちは授業内におけるつぶやきが非常に多く、自主的に友と意見を交わす姿や素朴な疑問を投げかける姿など、自己表現力に長けている。特に「世界を変えよう」と題して社会問題についてスピーチする授業では、ユーモアを交えたり資料を提示したりしながら意見を発表しており、抵抗感なく他者に考えを伝えることができる。昨年度は、「中学生にスマホは必要か」というテーマについて根拠を明確にして主張したり、相手の主張を聞いたりするという活動を行った。それにより、有意義な討論を行うためにはテーマに対する情報や知識が必要であること、そしてそれらを根拠にして論理的に主張する必要があることを学んだ。しかし、根拠を明らかにしながら自分の思いや考えを伝える重要性を認識しつつも、根拠の正当性を見失ってしまったり、自分の考えに固執してしまったりする姿がある。また、他者の考えに耳を傾けられず話が平行線になってしまう場面も見られる。

本教材は、身近な課題について複数の情報や考えを結び付けて考え、立場や考え方の違いを認め合いながら合意形成に向けて話し合うというものである。そこで、生徒にとって必要感のある話し合いを行うために、同時期に学習している社会科公民分野と繋がりをもたせ、社会科の学習で浮かんだ問いである「選挙に行かない人を行きたくさせるにはどうすれば良いか」を話し合いのテーマに据える。第一時は話し合いのテーマを設定すると同時にブレインストーミングを行い、テーマに対する自身の考えを言語化したり多様な提案を生み出したりする。その上で「出された提案の中で最も良いものを全員が納得する形で決めるにはどうすれば良いか」という単元を通した学習問題を設定し、多数決に頼らない合意形成の方法を模索していく。第二時には前年度の学習から話し合いで意見を述べるためには確かな情報に基づく根拠が必要であることを振り返り、テーマに関する調べ学習を行う。同様に既習事項である「各メディアにおける情報の信頼性」という点も確認し、調べる情報媒体は新聞を中心とする。第三時には収集した情報を根拠として自身の考えをより論理的なものにしていく。第四時には前時までに組み立てた考えを持ち寄って話し合いを行うが、その際に「多数決に頼らずに全員が納得する結論を出す」という点を再確認し、多様な考えを吟味することで合意形成を目指す。

このような学習に取り組むことで、合意形成に向けた話し合いでは、根拠を示しながら論理的に自分の意見を述べるとともに、他者の意見に耳を傾け、比較・検討しながら集約していく必要があることを学べると願い、本単元を設定した。

Ⅴ 単元の目標

- 1 根拠を明確にして主張を行い、説得力のある議論をすることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)
- 2 新聞記事からテーマに関する情報収集を行い、伝え合う内容を検討することができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- 3 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して話の構成を工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 4 観点に沿って提案を整理したり、多様な提案を比較・検討したりしながら納得できる結論を出そうとすることができる。(思考力、判断力、表現力等)

VI 単元の評価基準

主体的に学習に取り組む態度	思考力、判断力、表現力等		
① 根拠を明確にして主張を行い、説得力のある議論をしようとしている。	オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。(話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有(話し合うこと))		
	②新聞記事からテーマに関する情報収集を行い、伝え合う内容を検討している。	③自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して話の構成を工夫しようとしている。	④観点に沿って提案を整理したり、多様な提案を比較・検討したりしながら納得できる結論を出そうとしている。

VII 単元展開

学習活動	指導内容	評価基準	時間
1 テーマを提示すると同時に昨年度の学びを振り返り、学習の見通しをもつ。	<p>◇社会科公民分野での問いを提示し、「選挙に行かない人を行きたくさせるにはどうすれば良いか」という話し合いのテーマを設定する。</p> <p>◇テーマについてブレインストーミングを行い、様々な提案をしてみるよう促す。</p> <p>◇多様な提案が出たうえで、「出された提案の中で最も良いものを全員が納得する形で決めるにはどうすれば良いか」という問いかけをし、単元を通じた学習問題を設定する。そのうえで観点に沿って提案を整理する話し合いの方法を提示し、自分の考えを主張するだけでなく、よりよいものを納得する形で決めさせる見通しをもてるようにする。</p> <p>◇昨年度の討論会での学びを振り返り、有意義な話し合いには客観的な情報に基づく根拠が必要であることを想起できるようにする。</p>	①根拠を明確にして主張を行い、説得力のある議論をしようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)	1
2 根拠が明確な主張をするため、テーマに対する情報収集を行う。	<p>◇既習事項を振り返り、情報を集める際の手段や方法を復習できるようにする。そのうえで信濃毎日新聞のデータベースを中心に様々なメディアを用いてテーマに対する情報を収集できるようにする。</p> <p>◇選挙の現状については社会科公民分野での学習も想起するよう促す。</p> <p>◇家族など身近な有権者にもインタビューをして、なぜ投票率が低いと思われるか調査するよう促す。</p>	<p>②新聞記事からテーマに関する情報収集を行い、伝え合う内容を検討している。(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>③自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して話の構成を工夫しようとしている。(思考力、判断力、表現力)</p>	1

<p>3 集めた情報を基に、テーマに対する自分の主張を、相手意識をもって組み立てる。</p>	<p>◇集めた情報のなかから自分の主張に適した情報を選ぶよう助言し、主張を組み立てられるようにする。</p> <p>◇根拠の示し方について問い、スクラップ形式やスライド資料での提示など目に見える形で根拠を示せるようにする。</p>	<p>② 新聞記事からテーマに関する情報収集を行い、伝え合う内容を検討している。(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>③ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して話の構成を工夫しようとしている。(思考力、判断力、表現力等)</p>	<p>1</p>
<p>4 根拠を示しながら話し合いを行い、合意形成を目指す。</p>	<p>◇グループを形成し、根拠を示しながら自分の主張を述べられるように促す。</p> <p>◇「多数決に頼らず全員が納得する結論を出す」という点を確認し、第一時に確認した話し合いの観点に沿ってそれぞれの主張を整理するよう促す。</p> <p>◇結論が出たグループには「なぜ結論を出すことができたと思うか」、結論を出せなかったグループには「なぜ結論が出せなかったと思うか」を問い、グループごとの話し合いの展開を振り返るよう促す。</p> <p>◇「出された提案の中で最も良いものを全員が納得する形で決めるにはどうすれば良いか」という単元を通した学習問題を問い直す。</p>	<p>① 根拠を明確にして主張を行い、説得力のある議論をしようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>④ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(思考力、判断力、表現力)</p>	<p>1</p>

VIII 本時案

1 単元名 「合意形成に向けて話し合おう」

2 主 眼 出された提案の中で最も良いものを全員が納得する形で決めるにはどうすれば良いか考える場面で、根拠が明確な主張をしつつ、観点に沿ってそれぞれの主張を整理していくことを通して、他者の意見に耳を傾け、比較・検討しながら集約していくことで互いに納得できる結論を出せるということを学ぶことができる。

3 本時の位置 (全4時間中 第4時)

前時：集めた情報を精査し、テーマに対する主張を組み立てた。

4 展 開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助 評価	時間	備考
導 入	1 前時の復習	ア 去年の討論会では説得力のある主張はできたけど、結論を出すことはできなかった。どうしたら色々な考えがあるなかで結論を出せる話し合いができるだろう。	◇第一時のブレンストーミングや昨年度の討論会の様子を振り返るよう促し、主張をするだけでは結論は出ないことを確認し、単元を通した学習問題を設定する。	5	タブレット 新聞記事
	2 学習問題の設定	【学習問題】 出された提案の中で最も良いものを全員が納得する形で決めるにはどうすれば良いか			
展	3 学習課題の設定	イ まずは説得力のある主張をしなければいけないと思う。 ウ そのうえで、第一時に観点到に沿って話し合う方法を学んだからそれを活用して話し合ってみよう。	◇第一時から第三時までの学習を振り返り、学習課題を設定する。	25	
	4 追究	【学習課題】 根拠が明確な主張をしつつ、観点到に沿ってそれぞれの提案を整理しよう			
開		エ 投票率が特に低いのは、政治に関心のない人が多いからだ。特に若者は投票率が低く、前回の参院選は10代の投票率は34パーセントだったと報道されている。だから、若者が選挙に行きやすい対策をすれば良いと思う。例えば、ネット投票はどうだろう。 オ ネット投票は便利だし効果的だと思われるけど、「実現可能化か」という観点では難しいと思うと言われてしまった。 カ そもそも国民全体が政治に関心が薄いというデータがあるから、若者だけでなく国民全体に働きかけるような対策が必要という主張の人がいた。投票したら飲食店で使える割引がもらえるという提案は実現しやすそうだし効果もあるかもしれない。	◇主張をする時には根拠となる新聞記事や情報源を提示しながら話すよう促す。 ◇まとめ役の生徒を中心にそれぞれの主張を「実現可能か」「効果的か」という観点到で表を用いて整理するよう促す。観点到は話し合いの展開に応じて変更しても良いことを伝える。 ◇「多数決に頼らず結論を出す」という点を再確認したうえで結論を出すよう促す。 ◇話し合いが停滞してしまったグループには多くの人に効果がありそうな提案はどれか考えるよう助言する。	10	
	／	キ 割引がもらえるという提案は効果的だけど選挙の本来の目的から外れるという指摘があった。その代わりにコンビニや駅など外出のついでに投票できるような投票所を増やせば良いという提案があった。ネット投票より便利さという点では劣るけど、ネット投票より実現可能性は高いな。	◇「なぜ結論を出すことができたと思うか」、または「なぜ結論が出せなかったと思うか」を問い、グループごとの話し合いの展開を振り返るよう促す。	10	
終 末		ク 色々な主張があったけど、利便性と実現可能性という点で「コンビニや駅などで投票できるようにする」という結論にまとまった。 ケ みんなの主張に明確な根拠があって説得力があった。そのままだと結論は出なかったけど、主張を比較したり観点到に沿って整理したりしたからみんながある程度納得する結論を出すことができた。	◇単元全体を振り返って気付いたことや感じたことを書くよう促す。		
	5 振り返り	コ 色々な考えがあるなかで結論を出すには、自分の主張をするだけではダメだということがわかった。自分以外の人主張や考えを聞いて、それぞれの主張を比較したり整理したりしながら折り合いをつける必要があると思った。	〈評価〉 ①根拠を明確にして主張を行い、説得力のある議論をしようとしている。(討論の姿・振り返り) ④話し合いによって結論を出すには観点到に沿って提案を整理したり、比較・検討したりする必要があることに気付いている。(討論の姿・振り返り)		

ついて「効果的か」「実現可能か」という観点で吟味する方向性であった。それにより、それぞれの提案について中学生としての率直な思いを交えながら語り合う姿が見られた。S 生の提案については「もう少し制度を和らげれば投票率は上がりそう。でも、できるのかな?」「でも、できそう。」「実現性はちょっと低いかな。」と、何らかの理由があって現行の制度になっていることを考えて、効果はありそうだが実現性は低いのではないかという結論に至っていた。効果について異論がなかったのは、S 生が提示した新聞記事が、投票に壁を感じている有権者のリアルな声であったこと、不在者投票制度の詳細を説明によりその煩雑さを共感できたことによると考えられる。

S 生はこの話し合い活動を通し、主張をする際には他者を納得させられるような根拠が必要であることを再認識するとともに、多種多様な考えを比較したり検討したりしながら話し合うことで、合意形成に至る話し合いになることを学ぶことができていた。



新聞記事を根拠に、まとめた考えを伝える S 生の姿

【S 生の振り返り】

全員が納得する結論のために絶対的な証拠を集め上手に活用することができた。自分は交通費という観点から全員を納得させられる自分なりの結論を導き出せた。自分の意見について話した後、似ている意見と結び付けて考えられた。そもそもの選挙という観点から話し合いに有力な情報を出し合えた。より効果的な話し合いには一人一人の意見を大切にすべきであった。

【A 生の振り返り】

みんなの提案を聞いてみて、根拠に基づいて提案していたり、例を使って分かりやすく説明してくれたりした人もいた。根拠に使ったアンケートをみんなで話し合って、新たに“こんな制度とかもどう?”と新しい案を出すことができた。効果と実現性の観点から考えたときに客観的に見たり、出た意見を拒否するのではなく、意見同士をくっつけたりすることで、よりみんなが納得しやすい意見になると感じた。

(7) 成果と課題

新聞記事を用いることで、学習してきたことと実社会に存在する問題を結び付けて考え、意欲的に学習する姿が見られた。

現代は、SNS を用いれば様々な情報を手に入れることができる。授業の中で調べるには手軽で速い。その反面、正確では無い情報があることを、授業を通して理解し、新聞のもつ情報に対する信頼性を学ぶことができていた。また、授業の中で新聞記事を「客観的な情報」として、考えの根拠とする授業を構想していたが、必ず執筆者の考えが入っていることを理解する必要があると分かった。生徒は自身の意見を考える時に、新聞をじっくりと読み込み、自身の経験や価値観と一致する部分を探し出していた。執筆者の考えを生徒が消化し、自分の考えとすることで、意欲的に発信し合う姿につながったと考えられる。

今後も、教科書を扱うだけでなく、新聞を用いることで、実社会とつなげ、身につけてきた力を活用する学習を大切にしていきたい。